

令和4年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

普及センター名 南那珂農業改良普及センター

プロジェクト名 産地ビジョンに基づいた食用かんしょ産地の維持

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「産地ビジョンに基づいたかんしょ産地の維持」に向けて、地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。 ・ 農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要作物である食用かんしょのサツマイモ基腐病に対して、対策が細かくされ収量が増え始め、担い手に向けての研修もされていて素晴らしい。 ・ 病害防除技術の定着に向けて、農業者、官民一体となった活動が進められている。 ・ 農業者や関係の連携のもと、基腐病への対応を具体的に進め、自発的な座談会や各種の研修会を行うなど、かんしょの生産振興に着実に取り組んでいる。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及課題の成果目標は達成に向けて順調に進捗している。 ・ 総合的な病害防止技術や抵抗性に優れる「べにまさり」栽培ノウハウの定着、ウイルスフリー苗への転換は、地域全体へ大きな波及が期待できる。 ・ サツマイモ基腐病の終息が見通せない。 ・ 地域の自発的な取り組みで栽培技術の斉一化を図るとともに、各種の研修会を行うことで地域全体、及び他の地域への波及も期待できる。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ サツマイモ基腐病対策のマニュアル作成・実施や新品種の導入など様々な努力を重ねられていることに、消費者として感謝。今後も産地を守るために、地域一丸となって対策を進めていただきたい。 ・ 「サツマイモ基腐病」を克服して、かんしょ生産の維持を目指す取組が着実になされている。 ・ 持続可能な農家経営をかんしょ+αを探すことで難局を乗り越えられると考える。 ・ 基腐病の発生は、同一作物を栽培しつづけたことに起因すると考える。新しい作物にもチャレンジする時だと思います。 ・ 本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。
普及活動等への対応方針	<p>H30年から発生しているサツマイモ基腐病の対策について座談会等で品質向上に係る対策の助言や病害対策資料の配付を行ったことで、生産者の総合的な防除対策に対する意識が向上し、自主的な対策の実施を促すことができた。令和4年度はこれまでの総合的な防除対策への取組に加えて、天候にも恵まれたことから、ほ場内での発生は大幅に減少したものの、収穫時に外観上健全でも貯蔵中の腐敗が課題となっている。</p> <p>そのため、引き続き、健全種苗の確保や収量向上、貯蔵後の品質維持に向けて、これまでどおり座談会等で総合的な防除対策の実施を促すとともに、開発された有効な対策については、基腐病の防除技術確立のために、関係機関と連携して、積極的に現地でも実証を行っていく。</p> <p>また、病害の影響で発生前と比較し、生産者や作付面積が減少しているため、担い手の育成に向け、サツマイモ基腐病対策の内容を中心に、個別巡回や経営補完品目（新品目）の栽培支援により経営者の育成を図る。</p>	

普及センター名 南那珂農業改良普及センター

プロジェクト名 南那珂地域における持続可能な水田農業の実現

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none">・ほ場整備事業の時期が未定なのが不安。・生産性の高い水田農業を実現し、集落ぐるみで支える仕組みの構築に向けて、高い視点から、しかも地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。・農地集積率や営農構想の策定、や合意形成地区数など、おそらく非常に難度の高い到達目標が掲げられているが、持続可能な水田農業の実現に向けて適切な計画である。・農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none">・水田農業に対して、生産者、行政、JAともに話し合い、大規模経営に向けて取り組んでいる点が良い。・課題全般について精力的な取組がなされている。・特に「新規品目導入への取組」について、「PDCAサイクル」による効率的な取組が、しかも連携良く行われている点を高く評価する。・農業者や関係の連携のもと、大規模経営体に対するヒアリングやネットワーク構築に向けた働きかけを行うなど具体的に進め、また集落代表者と意見交換を行うなど、水田フル活用に向けた技術支援・生産振興に着実に取り組んでいる。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none">・農地集積率その他の数値目標について、現在の状況とR7年度の目標値の開きが大きいのが気付き。合意形成についてなど、デメリットについてもお聞きして、大変な事業だと認識しました。他地域の事例なども踏まえながら、円滑に事業が進むよう、より一層の支援が必要かと思う。・目標の達成が見通せているともまでは言えない状況であるが、着実に取組が進展している。プロジェクトの成果は地域全体への大きな波及が期待できる。・地域の自発的な取り組みで栽培技術の斉一化を図るとともに、各種の研修会を行うことで地域全体、及び他の地域への波及も期待できる。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none">・良い先進地になることを期待する。・儲かる農業の実現に向けて、地域や関係者が一体感を持って取り組んでいると感じれる。・地域ビジョンや普及指導計画が目指す「課題が解決された将来像」の設定に際し、「現状の延長にある将来像」を描いていくことが実現可能性からも当然であるが、現状の延長でない「ありがたい“やや遠い”将来像」を描いてみることも無意味ではないと考える。・本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携のもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。
普及活動等への対応方針	<p>水田農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化や米価の低迷により厳しさを増している。このような中、生産性と収益性の向上に向けて、大規模水田経営体を対象に、記帳データや決算書に基づく経営課題の把握と経営分析検討会の実施、水田の作期を考慮した新品目導入の提案と実証ほに対する技術支援や経営評価、スマート農機の導入検討や実証、研修会等に取り組んだ。</p> <p>また、南那珂地域の水田農業に係る連絡会議と連携し、大規模水田経営体に対する意見交換や情報提供、研修会を実施するとともに、ネットワークの構築に取り組んでいる。</p> <p>今後も、経営評価に基づいた生産性の高い経営体の育成支援に取り組むとともに、地域の担い手となる大規模経営体や地域計画作成予定地区を対象に情報提供やネットワーク構築支援、検討会を実施し、集落ぐるみで経営体を支える仕組みの構築に取り組む。</p>	

普及センター名 北諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 地域をけん引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none">・集落営農法人の経営安定は本県農業を守るために欠かせない。・収益性の高い農業の構築に向けて、地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。・成果目標の設定に際しては、到達目標に加えロードマップ的に「年毎の」目標が明示されると、PDCAが具体化され、実現可能性がより高まると思われる。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none">・集落営農法人の経営安定は本県農業を守るために欠かせない。重点対象集団でぜひ成果を出し、地域への普及をお願いしたい。ネットワークの構築も今後ますます重要になる。・営農法人間の関係構築や検討会実施など、良い取組だと思う。収穫動画の作成も農業未経験の人にとって作業への不安軽減にとっても役立つと思う。・いずれの課題についても適切な取組がなされている。・普及課題2「ほ場条件にあった作付け体系の確立」に関して、講習会、検討会を経て「10項目の改善取組目標」を設定した取組を高く評価する。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none">・経営計画の検討、見直しを行う法人数増を期待する。・3つの普及課題のうち2つについて、令和3年度時点で成果目標を達成していることは、今後の変動があり得るにしても、高く評価できる。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none">・経営分析や労務管理などの支援はぜひ今後も続けてほしい。・援農隊のPRを含め、いろんな業態・業種との連携が深まることで、短期雇用希望者とのマッチングが進むと思う。・農業の収益性を高めることは、「就農者・後継者確保」への必須条件かつ近道と思われる。農業者、官民連携により、持続可能性の高い基盤の強固な集落営農が構築されることを期待している。・集落法人以外にも大規模な法人がたくさん集まるこの地域ならではの課題であり、いづれ他地区の見本となる事例をたくさん集めて課題解決の手法となることを期待する。
普及活動等への対応方針	<ul style="list-style-type: none">・計画の策定に当たっては、地域全体の到達目標の達成のため、5ヶ年の成果指標を設定、年度ごとに普及課題、普及事項を普及計画に記載しているところですが、PDCAを具体化し、より効果的な活動となるよう、ロードマップの策定を検討していきます。・雇用労力確保に向けた「援農隊」の取組については、令和5年度、関係機関・団体の広報誌やホームページに加え、より広くPRに取り組み、繁忙期の短期雇用者の確保に努めていくこととしております。また、オペレーターや後継者の定着に向けた長期雇用者の確保、育成を支援します。・収益性の確保に向け、スマート農業技術を取り入れた効率・省力的な作業管理体系の構築に向け、民間の農業生産法人と情報共有を進めていきます。	

普及センター名 北諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 北諸県地域を支える多様なアグリプレーヤーの確保・育成

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none">・市町村別の農業産出額全国トップの都城市を含むだけに、「多様なアグリプレーヤー」という視点には共感できる。半農半Xや定年帰農などを推進し、全国に先駆けたモデルを構築してほしい。・アグリプレーヤーの確保・育成に向けて、地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。・成果目標の設定に際しては、到達目標に加えロードマップ的に「年毎の」目標が明示されると、PDCAが具体化され、実現可能性がより高まると思われる。・北諸地域でたくさんの事例を作ってもらいたい。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none">・競合する雇用型経営体で組織するグループ「スイミー都城」は注目すべき取り組み。共通課題である労働力確保における、共同求人の在り方などは今後も議論を深めてほしい。・経営体同士のつながりやオンライン説明会、動画作成など、ソフト面での取組が進んでいると感じた。・3つの普及課題について適切な取組がなされている。・特に、今後の新規就農の主要ルートのひとつである経営体13社の連携の仕組みを構築し、雇用者に選ばれる経営体の育成に取り組む活動は高く評価できる。・普及課題1. 「多様な就農希望者ニーズに則した新規就農ルートの確立」に関する提携先に「民間」が含まれていないことに違和感を感じる。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none">・資材高騰など環境は厳しいが、令和7年の管内新規就農者数目標250人を実現してほしい。・課題の難度が高く、進捗が芳しいとは言い難い状況であるが、是非達成してほしい。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none">・説明において、食料安全保障の観点からのプロジェクトの重要性についての言及もあり、期待したい。・女性農業者への活動支援について興味関心のある人に情報が届くよう広報についても強めていただけたらよいと思います。・アグリプレーヤーの確保・育成に向けて、様々な角度から取組が進められており、今後の成果が大いに期待できる。・地域の担い手として、高い意識を持てる人材育成が求められる。長い目で育てることが大切と思う。
普及活動等への対応方針	<ul style="list-style-type: none">・半農半Xや定年帰農など様々な就農ニーズがあることから、それらにしっかりと対応できる品目の組み合わせなど、北諸県地域に適した営農モデルの構築に向け、関係機関・団体と一体となり取り組むこととしております。・雇用型経営体の労働力確保については、市町の移住・定住部署とも連携を図るなど、引き続き、効果的な共同求人のあり方を検討していきます。・「多様な就農希望者ニーズに即した新規就農ルートの確立」における民間との連携については、肉用牛ヘルパー会社との連携した新規就農者の確保の取り組みを進めていくこととしてしているところです。・女性農業者の活動支援については、SNS等を活用しながら、興味関心のある女性農業者へ情報が届くような取り組みを継続しながら、ネットワークの構築を進めていきます。	

普及センター名 西諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 西諸県地域の特色を活かした花き産地振興

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none">・品目別で出荷量を維持するもの、拡大させるものそれぞれで普及計画があり、ぜひ実践してほしい。・花き産地の進行に向けて、地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。・成果目標の設定に際しては、到達目標に加えロードマップ的に「年毎の」目標が明示されると、PDCAが具体化され、実現可能性がより高まると思われる。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none">・品質目標達成農家戸数のグラフは分かりやすく、全体の底上げによるブランド化には欠かせないものだと感じた。・課題全般について、関係各所が連携して効率的な取組がなされていると思われる。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none">・キイチゴは手がそこまでかからず、基本技術の定着により、ぜひ、農家の副収入につなげてほしい。・計数的な成果目標は順調に進捗している。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none">・県内での認知度向上や消費促進にも取り組んいただきたい。・キイチゴは作業性や収穫時期、栽培面積等の面でとても効率のよい作物だと認識した。宮崎の温暖な気候で、県外産地との出荷時期の差別化も図れるということで、期待できると思う。・花き産地の活性化に向けて、効果的な取組が進んでいる印象。・プロジェクト全体の目標達成も順調に進捗している。・この地域の特色は生かされているが、マイナス面もカバーできる努力を期待する。
普及活動等への対応方針	<ul style="list-style-type: none">・本プロジェクトについては、計画的に課題解決が図られております。・一部は、前倒しで到達目標に達しているものがあるため、次年度に向け、新たな目標を設定し活動を展開する予定です。・また、本プロジェクトの重点対象集団は、法人化し企業的な経営を志向する経営体や露地野菜等との複合経営体、家族経営体等幅広く設定しています。このため、集合研修はもとより、個別対応も交えながら課題解決を図り、得られた成果を地域全体にフィードバックしていきたいと考えております。・農業を取り巻く情勢は、近年の世界情勢の変化等により厳しさを増しています。燃油や肥料高騰、電気料の上昇等は農業経営を圧迫しており、本プロジェクトの基準年度の令和2年度には想定していなかった状況となっております。このため、これら問題にも適宜対応しながら地域の課題解決を図って参りたいと考えております。	

普及センター名 西諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現

主な意見・提案	計画の評価	<ul style="list-style-type: none">・オペレーターの確保や管理作業の省力化等の課題設定は適切だと感じた。「みどりの食料システム戦略」への言及もあり、構築連携の取組にも期待したい。・「持続的な次世代型水田農業の実現」に向けて、地域の実情に則した適切な課題設定がなされている。・「持続性を高める」ために収益力の向上は不可欠だが、収量の向上に偏らず、コスト削減と省力化への取組を組み合わせることで、実現可能性を高める適切な計画となっている。
	活動の評価	<ul style="list-style-type: none">・ICTを活用したスマート農業の推進は国内外を含めた産地間競争に欠かせない。高齢農家の導入や、機材の選定などは容易でないため、県には強力なリーダーシップを期待したい。・課題全般について着実な取組がなされている。・取組の効果を数値化して検証していることで、新たな課題の発見や対応を可能にしている点が評価できる。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none">・次世代型水田農業推進会議を中心としたモデル事業の成功をぜひ実現させ、成果を地域に還元することを期待する。・到達目標の達成に向けて順調に進捗している。・栽培技術の省力化や高収益の栽培品目選定への取組は、地域全体への波及が期待できる。
	総合評価・その他	<ul style="list-style-type: none">・稲作の持続的な発展は、本県の基幹産業である農業には欠かせない。システム化された現状の取組を今後も継続してほしい。・除草剤処理・省力化技術の取組で、作業の軽減やコスト削減について成果がでていることはよく理解できた。ただ除草剤について、環境に与える影響が気になる。また、ドローンなどのスマート農業の技術の普及状況が気になる。・持続可能な水田農業の実現に向けて、地域や関係者が一体感を持って取り組んでいると感じられる。・農機具オペレーターは、農家が主体になる状況にあり、限界があるため、外部を探す必要もある。また、正当なオペレーター賃金の作成も必要。
普及活動等への対応方針		<ul style="list-style-type: none">・担い手の減少や高齢化が進む中で、当地域の水田農業を維持させるためには、大規模経営体や農業法人が経営管理能力を高め、農地を集約した効率的な営農や育苗、除草作業や水路管理等の稲作に関わる農作業の省力化を図り生産性を高めるとともに、冬作物導入による収益力の高い農業を展開する必要があります。・本プロジェクトにおいては、普及指導部門と市町や農業団体等の関係機関が一体となって、課題解決を図ることとしており、地域での連携体制は確立されつつあります。・また、スマート農業技術の高密度播種苗の利用について、育苗体制の整備や栽培技術の確立が着実に進んでおり、次年度には広域普及に向けた大規模展示に取り組むこととなっています。このことにより、稲作の省力化を加速化させることとしています。・さらに、冬作物の検討では、早生小麦の試験を開始して地域での栽培適性を検討するとともに、製粉・販売についても地域一帯となって課題解決にあたることとしています。